

# 2013（平成 25）年度 事業計画書

2013年5月1日～2014年4月30日

認定NPO法人 アジア日本相互交流センター

---

INTERNATIONAL CHILDREN'S  
ACTION NETWORK

*Not "for" the People, but 'with' the People*

# アイキャンの理念と信念、大切にしている価値・行動指針

## 1、アイキャンの理念と信念

世界中の子どもたちが享受できる平和な社会

それは「アイキャンな人（できることを実践する人）」が社会に溢れることでつくられる。

## 2、大切にしている価値

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| (1) エンパワメントと住民・子どもが中心の開発 | (6) ジェンダーに敏感に |
| (2) パートナーとしての認識          | (7) 人間の権利の尊重  |
| (3) 社会参加と声               | (8) 多様性の尊重    |
| (4) コミュニティベース            | (9) 中立性       |
| (5) 構造的変革の重視             | (10) 市民社会の創造  |

## 3、大切にしている行動指針

人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」 *Not "for" the People, but "with" the People*

## 2013 年度の重点方針

### 1、「危機的状況にある子どもたち」のプログラムの質の向上と拡大

～アイキャンを最も必要としている子どもたちと「ともに」行動し続ける～

#### (1) ミンダナオ島での事業

ミンダナオ北部・中部・南部の 3 つ事務所を拠点に、紛争地での「平和の学校」を作っていく活動や「先住民に優しい学校づくり」の活動等、平和構築や教育、保健医療、災害からの復興等の事業を継続する。

昨年度、「災害の影響を受けた子ども」の事業の一環で、学用品等の提供を行ってきた同島北部のブキドノン州の先住民ヒガオノン等の村々は、車両が通れる道路から徒歩で 3～5 時間山を登り、川をいくつも超えなければならぬ場所に位置する。150 年以上前のスペイン植

民地時代から近代社会とは断絶した地域であり、政府機関や NGO も入ることができていない。アイキャンは昨年度の内に、同村々に住み込み、住民と関係を築くことができたため、今年度、この地での活動を「先住民の子どもたち」の事業の 1 つとして強化していく。

またミンダナオの和平合意に向けて、政府・反政府 (MILF) から中立の立場で、積極的に活動を展開していく。ミンダナオ各地の事業を通じて、ミンダナオの平和を一刻も早く目指す。

#### (2) マニラ首都圏での事業

マニラ首都圏各地で行っている「路上の子どもたち」の事業は中期 5 年計画の 3 年目となるため、過去 2 年間の評価と中期計画の見直しを行う。その際、増え続けるマニラ首都圏の路上の子どもたちの状況に対応するために、特に、「インパクト」の拡大と「持続性」の担保に留意し、活動内容を変えていく。また、日々生命が脅かされている路上の子どもたちの命を守るために、寄付

を募り、また繰越金を活用することで、マニラ首都圏及びその近郊に、短期保護施設と長期保護施設を新設する。

「ごみ処分場の子どもたち」の事業では、アイキャンのこれまでの事業の中で設立された「女性フェアトレード生産者団体 (SPNP)」の商品開発及び組織基盤強化を行うとともに、前年度までにある程度軌道に乗っている「協同組合 (PIC0)」の経営のフォローを行っていく。

#### (3) その他の地域での事業

フィリピンにおける重点として、昨年度までは、上記ミンダナオ島とマニラ首都圏を掲げてきたが、フィリピンの経済成長の過程で地域の課題も多様化しており、上記 2 地域以外での事業を模索する。その際、これまでのアイキャンの経験や専門性に加え、企業や他の組織との連携により、相乗効果をもたらし、より多くの人々の生

活向上を目指す。また、これまでのフィリピンと日本での大規模災害の緊急救援の実績を活かして、世界で起こる大規模な自然災害や紛争に対して、アイキャンの経験を活かせると判断される場合は、フィリピンと日本以外でも積極的に行動していく。

## 2、『できること(ICAN)』を増やす」プログラム

～「できること(ICAN)」を実践する人で溢れる地域へ向けて、もう一段上を目指す～

### (1) フィリピン社会への働きかけの強化

教育機関での国際理解教育の授業や講義は、これまで主に日本国内で行ってきたが、今年度よりフィリピン国内の教育機関での授業や講義を増やしていき、「危機的状況にある子どもたち」の状況を広くフィリピンの若者に伝えていく。また、その際、極力フィリピン人スタッフが中心となって講義を行えるように必要な研修を行うと

### (2) 「国際理解教育海外研修」と「アイキャンスタディツアー」のモジュール改訂

アイキャンのマニラ首都圏及び近郊での海外研修やスタディツアーの需要は高く、年間280名ほどの参加者がいる。「国際理解教育海外研修」においては、オーダーメイドで各校の教育理念と研修目的に合わせてモジュールを作成しているが、高校・大学ともに、現在のものを作成してから数年経過しているため、今年度の実施

### (3) 「フェアトレード」における販売事業と啓発事業の統合

昨年度「フェアトレード名古屋ネットワーク」を他3団体とともに立ち上げたことで、啓発活動の多くは、このネットワークを通じて行うこととなった。そのため、アイキャンとしてのフェアトレードの販売事業と啓発事業は、今年度より1つに統合する。フェアトレードの販売面では、フェアトレード活動の参加者層を広げるた

ともに、フィリピン人ボランティアの増加を目指す。

インターン育成事業では、フィリピンで学ぶ日本人大学院生への特別制度を開始し、インターン生がこれまでよりもより責任のある業務を担えるように育成するとともに、増加するマニラの日本人職員の業務の軽減を目指す。

を踏まえ、詳細にその効果を評価し、次年度のモジュール改訂へとつなげていく。交流を目的とした「アイキャンスタディツアー」も、現在のモジュールは、好評ではあるものの、作成から5年経っていることもあり、今年度の実施を踏まえ、改訂を行う。これらの改定を通じて、更に社会問題に対して行動する「仲間」を増やしていく。

めに、今年度は、数千円程度の価格帯の商品の販売を強化する。また、フェアトレードコーヒーをはじめ飲食の提供も試み、フェアトレードをより身近に感じてもらえるように努める。その際、特に、東京のグローバルフェスタ、名古屋の世界コラボフェスタ、大阪のワンワールドフェスティバルの三大イベントに注力する。

## 3、財政面の強化

～2030年の世界を見越して、今アイキャンが動き出さなければいけないこと～

### (1) 会員・寄付者（団体）、自主事業参加者の増加

『一人ひとりのできること』を持ち寄る」というアイキャンの団体名が示す通り、「生まれ育った地域で地球規模の課題を解決するためのボランティアや寄付が、きるようにする」ために、アイキャンは、財政面においても、今よりもより多くの人の「できること(ICAN)」によって成り立つ団体へと成長する必要がある。その為に必要な会員制度の抜本的改革、マンスリーパートナー寄付や街頭募金の推進、企業や教育機関等の積極的な連携、

### (2) 助成金及び受託事業収入の増加

これまでの実施方針と同様に、アイキャンの専門性を活かして、政府・民間の助成事業や受託事業を積極的に実施し、一人でも多くの子どもたちの生活環境を向上させていく。日本では、コンサルタント会社や民間企業と協力し、BOP ビジネス等のスキームにも力を注いでいくとともに、フィリピンでは、国連機関や各国大使館、外

自主事業の質の向上を目指す。企業との連携に関しては、これまでの愛知県に加え、東京とマニラを重点地域とし、寄付や連携事例を積極的に増やしていく。

また、本年度「自己資金増加中期計画」を策定し、会費、寄付、自主事業の収入の三年間の目標を設定する。その際、2030年頃の経済状況や人口動向の予測を考慮し、フィリピン国内での収入目標と目標達成戦略を作り上げ、フィリピン国内収入比率の向上を目指す。

資系企業の助成金への申請をフィリピン人スタッフが行えるようにしていく。また収入を円、ドル、フィリピンペソに分散させ、為替リスクを回避していく。

災害に対する緊急救援や復興の活動を行うために、ジャパンプラットフォームに加入し、フィリピン及び他国における災害に対応できる体制を構築する。

## 4、組織体制の盤石化

～成長を持続的にするために、今アイキャンが変わらなければいけないこと～

### (1) 長期経営ビジョンと中期経営方針の策定

2014年4月1日で、アイキャンは創立20周年を迎える。日本の地方都市に本部事務所があること、フィリピンにおける開発事業の専門性が高いこと、一人ひとりのできることを持ち寄って活動すること等のアイキャン

の特性を活かして、2030年に向けた「長期経営ビジョン」と三年間の「中期経営方針」の策定を行う。その中で、「3、財政面の強化」に記載の通り、フィリピン収入比率についても収入目標と目標達成戦略を記載する。

### (2) 理事会のガバナンス機能の強化

予算規模と職員数が増加する中で、社会的責任も増していることから、組織のガバナンスとチェック機能を強化する必要がある。そのため、理事会の開催頻度を増やし、経営状況について頻繁に話し合うとともに、必要で

あれば、理事の追加・補充を行うことを検討する。また、それぞれの専門性や豊富な経験をもとに、団体外からアドバイスをを行う「アドバイザー制度」導入の可否についても検討する。

### (3) 中間管理職の能力強化

有能なフィリピン人スタッフをプロジェクトマネージャーやそれに準ずる立場に積極的に登用するとともに、開発事業や異文化理解等の必要な能力強化の研修を提供する。日本の中間管理職についても研修の機会を増

やし、特に他NGOとの接点を増やすことで、より客観的に判断を下せるように促していく。これにより、集団管理体制への移行を積極的に進めていく。

### (4) 労働環境の向上「長く安心して働ける組織を目指して」

フィリピンでは、他のフィリピンのNGOの賃金体系を参考に、責任に見合う賃金体系に改訂し、日本では、「労働環境向上中期計画」を策定して、働きやすい職場を作り上げる。これにより、組織内に人材と経験が蓄積され、より高い効果を与える事業の実施能力を持つとともに、

安定した組織の運営を目指す。

また、現在のマニラ事務所は老朽化のため、雨漏りが激しく、業務が中断されるケースが出てきている。その為、今年度市内の別の場所へ移転を計画する。

### (5) 会計作業の効率化とチェック体制の充実

アイキャンの会計はとても細かく、精度高いことが評価される一方、管理職の多くの時間が会計業務に費やされていることから、今年度会計作業の効率化を目指す。フィリピンにおける会計フローの見直しを行うとともに、マニラ事務所の会計担当のフィリピン人スタッフを

増員する。また、これまでのフィリピン事務所の外部監査に加え、日本でも外部監査を付ける。これにより、事務局長、フィリピン事務所代表による事務所レベルで確認、税理士と設立者の監事による内部監査、両国の外部監査法人による監査と三重のチェック体制を確立する。

### (6) 理念と価値の積極的共有

アイキャンの理念と価値をより多くの人々と共有するために、フィリピン向けの英語のホームページを作るとともに、Facebookや会報を通じて、これまで以上に積極的に事業や事務所の様子を伝えていく。

新しい職員には、アイキャンの理念と価値に関する研修を徹底するとともに、事務所間の職員の交流を行うことで、理念と価値の理解の更なる浸透を目指す。

### (7) ネットワークの拡大

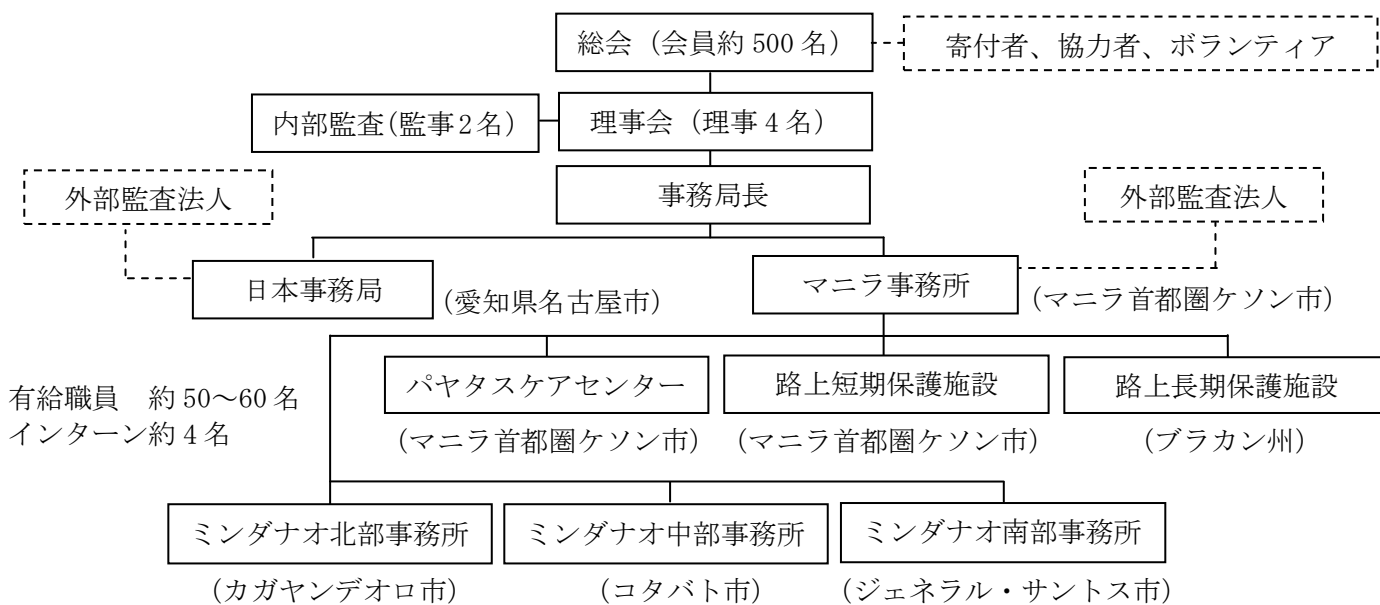
フィリピンにおいて「路上の子ども」や「平和構築」、「先住民」等の分野のNGOネットワークに加盟するとともに、アジア諸国の同じ価値観を共有するNGOとのネットワーク化を進める。ネットワークを通じて、「フィリ

ピンのNGO」としての組織改革を進めるとともに、協同行動を取ることで、より高い開発効果を目指す。また、災害等の緊急時には、アジア諸国のNGOと連携し、迅速に対応していく。

# アイキャンの概要

アイキャンが解決したい課題	現在に至っても、紛争や「貧困」などの暴力に脅かされ、可能性を開花することができない危機的な状況に置かれている子どもたちが世界中にいます。	地球規模の様々な課題に対し、生まれ育った地域に根差して取り組むことができる機会は、依然として限られており、日本では特に東京以外の地域において顕著です。
アイキャンが目指す理想の社会	子どもたちが紛争や「貧困」などの暴力に脅かされることのない社会をつくります。	理想の社会に向けて、行動する人や団体で溢れる地域社会をつくります。
アイキャンの活動目的	『『できること』を実践する人 (=アイキャンな人)』を増やし、その一人ひとりの「できること」を持ち寄ることによって、世界中の子どもたちが享受できる平和な社会を築くこと。	
アイキャンの2013年度事業	<b>I、「できること」を実践する人 (=アイキャンな人)を増やすプログラム</b> 1、紛争の影響を受けた子どもたち 2、路上の子どもたち 3、先住民の子どもたち 4、ごみ処分場周辺に住む子どもたち 5、災害の影響を受けた子どもたち 6、ジェネラル・サントスの子どもたち 7、外国にルーツを持つ在日の子どもたち 8、子どもの参加を促進する事業	<b>II、「できること (ICAN)」を増やすプログラム</b> 1、国際理解教育事業 2、語学教室事業 3、スタディツアー・研修事業 4、フェアトレード事業 5、NGO 相談員事業 6、インターン育成事業 7、MY アイキャン事業

## アイキャンの2013年度運営体制 (予定)



役員一覧	代表理事 田口 京子 養護学校教諭 理事 鈴木 真帆 会員 (看護師) 高畑 幸 静岡県立大学国際関係学部准教授 (文学博士) 宮脇 聡史 大阪大学大学院言語文化研究科講師 (文学博士) 監事 龍田 成人 設立者、豊田中央研究所 (工学博士) 林 俊彰 林税理士事務所 (税理士)
------	---

# 1、危機的状況にある子ども達と「ともに」おこなうプログラム

## A、紛争の影響を受けた子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・紛争地において6つの「平和の学校」を作り上げる。
- ・次期中期事業計画(2014-17)を策定する。

### 特記事項

- ・中期三年事業計画(2011-14)の三年目が開始する。

#### (1) 事業背景

ミンダナオ島中部では、40年以上もの間、政府軍と反政府軍(MILF)の武力衝突が続いており、多くの人々が住処を追われてきた。2012年に政府とMILF間で「和平への枠組み合意」が締結されたが、地域において、人々の憎しみや不信感は残り、争いの解決方法を武力に求めることが依然として続いている。

#### (2) 事業地 ミンダナオ島コタバト州

#### (3) 実施事務所 ICANミンダナオ中部事務所

#### (4) 目的 ミンダナオの紛争が終わること

#### (5) 活動の歴史 2007年より、学校の整備や平和研修を通じて、この地域の平和を促進する学校、「平和の学校」作りを推進している。

#### (6) 事業のパートナー 同町小学高校の教師や子ども、地域リーダーたち約1700名

#### (7) 活動分野 教育、平和構築

#### (8) 活動内容

##### 1) 校舎の建設・改修(17教室850名分)

スグアン村高校3教室(150名用)の建設、バラティカン村小学校6教室(300名用)及びバラバック村小学校2教室(100名用)の修復を完成させ、マリク・メモリアル小学校2教室(100名用)、ナブンタス小学校2教室(100名用)、ゴコタン小学校2教室(100名用)の建設を開始する。(教室の机や椅子等の整備含む)

##### 2) 「平和の学校(School of Peace)」研修

計6つの地域において、子ども、教師、地域リーダーに平和教育研修を実施し、地域での「平和の文化」の定着と平和活動を担う「平和の学校」を6つつくる。

##### 3) ミンダナオ子ども議会

ミンダナオの10の民族の子ども約30名が将来のミンダナオについて話し合う「ミンダナオ子ども議会」を実施し、その報告書を作成する。

##### 4) 次期中期事業計画(2014-17)の策定

ピキット町北東部における三年計画が2014年11月に終了するため、それ以降の中期事業計画を策定する。

##### 5) 和平交渉への進展

政府・反政府間の和平交渉進展に必要な活動を行う。

## B、路上の子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・路上の子どもの短期・長期保護施設を新設する。
- ・中期五年事業計画の見直しと実施体制の強化を行う。

### 特記事項

- ・中期五年事業計画(2011-16)の三年目が開始する。

#### (1) 事業背景

フィリピンでは、約25万人の子どもたちが路上での生活を余儀なくされている。子どもたちは物乞いや物売り、廃品回収等により生計を立て、様々な危険のなか暮しているが、その数は都市化の過程で増え続けている。

#### (2) 事業地 マニラ首都圏

#### (3) 実施事務所 マニラ事務所

#### (4) 目的 路上の子どもの権利が守られること

#### (5) 活動の歴史 2007年より、路上の子どもたちが特に多いマニラ市とケソン市の各地において、実施している。

#### (6) 事業のパートナー

路上の子どもたち及びBCPC役員約400名

#### (8) 活動分野 教育、保健、生計向上、啓発、組織化等

#### (9) 活動内容

ー地域行政強化アプローチ

「子どもを守る委員会(BCPC)」の強化を行う。

##### 1) BCPCの組織化及び強化研修: BCPCに対する研修

##### 2) 子ども対象BCPC研修用研修: 路上の子どもが講師としてBCPCの研修ができるようになる研修。

ー路上の子どもの協同組合アプローチ

フィリピン初の路上の子どもの協同組合による活動

##### 3) 路上の子どもの協同組合強化研修: 組合員増加等

##### 4) 子ども・若者開発銀行: 貯蓄活動

##### 5) 路上教育活動: 路上での道徳教育等

##### 6) 社会起業活動: パン屋をはじめとする生計向上活動

##### 7) ジュニアヘルスワーカー育成活動: 路上保健師育成

##### 8) 路上新聞の発行: 路上の子どもの声を伝える活動

ー福祉的アプローチ

今、子どもの命と生活を守る活動

##### 9) 保健・医療活動: 病気やケガへの対応

##### 10) カウンセリング活動: ソーシャルワーカーによるカウンセリング

##### 11) 教育経費補助活動: 通学経費の提供

##### 12) 代替教育システム: 学校外教育の提供

##### 13) 短期、長期保護施設の建設と子どもの保護

ーその他

##### 14) 中期五年事業計画の見直しを行う。

## C、先住民の子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・ミンダナオ北部の奥地へと事業地の拡大を行う。
- ・先住民の人々の生活についての調査記録を行う。

### 特記事項

- ・②は、中期三年事業計画(2011-14)の二年目となる。

#### (1) 事業背景

ミンダナオ島の山奥には、ブラアンやティボリ、ヒガオノン、マノボといった先住民が、近代社会と隔離された状態で伝統的な生活を送っている。その多くは、1970年代以降、深刻化してきた不法伐採や入植者による土地収奪により生活が脅かされており、農耕や採取を基盤とした自給自足の生活が成り立たなくなっている。学校もなく、無医村であることが多く、平均寿命も短い。

#### (2) 事業地

- ① ミンダナオ島南コタバト州（ブラアンやティボリの子どもが多い地域）※同島南部
- ② ミンダナオ島ブキドノン州（ヒガオノンやマノボ等の子どもが多い地域）※同島北部

#### (3) 実施事務所 ICAN ミンダナオ北部及び南部事務所

#### (4) 目的 先住民の子どもの地位が向上すること

#### (5) 活動の歴史 1996年より学校給食の提供を開始し、その後、学校建設、保健教育、水やトイレ整備、生計向上へと発展させ、事業地を拡大して実施している。

#### (6) 事業のパートナー

先住民の子ども、保護者や教師約2200名。

#### (7) 活動分野 教育、保健・医療、生計向上、環境等

#### (8) 活動内容

##### 1) 小学校校舎の建設と学用品の提供

①において、ピアオ小学校2教室(約100名用)を建築し、②において、子ども約400名に学用品を提供する。

##### 2) 児童会強化と教員研修

①において、児童会と教師の研修を実施し、「先住民に優しい学校づくり」のハンドブックを作成する。

##### 3) 生計向上活動

①において、伝統工芸の技術を高めて収入に繋げられるよう、母親たち約20名に技術を行う。

##### 4) 保健教育

①と②において、保健教育と保健師の育成を行う。

##### 5) 環境教育と植林

①と②において、環境教育と植林を行う。

##### 6) 調査記録活動

先住民の人々の生活についての調査記録を行う。

## D、ごみ処分場周辺に住む子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・フェアトレード生産者団体(SPNP)の商品開発を行う。
- ・多目的協同組合(PICO)の持続性を高める。

### 特記事項

- ・中期二年事業計画(2013-15)の一年目となる。

#### (1) 事業背景

マニラ首都圏の急激な都市化によって、生み出されるごみの量は増える一方、発生するダイオキシン等の問題で、処理場ではごみが「野積み」状態になっている。フィリピン最大のパヤタスごみ処分場では、資源を回収することで生計をたてている人が約2,000名いるが、崩落事故や収集車にひかれる事故も発生しており、危険で収入も低く、さらに呼吸器や皮膚の健康被害も後を絶たない。

#### (2) 事業地 マニラ首都圏

#### (3) 実施事務所 ICANマニラ事務所

#### (4) 目的 ごみ処分場周辺に住む子どもたちが、病気や栄養失調等で苦しむことがなくなること。

#### (5) 活動の歴史 1997年に長靴を送る活動として事業を開始した。2000年に技術訓練を開始し、2005年にフェアトレード生産者団体が設立、2003年から保健・医療活動を開始し、2010年にその運営母体の協同組合が設立された。

#### (6) 事業のパートナー

ごみ処分場周辺地域に住む住民30名

#### (7) 活動分野 生計向上、組織化

#### (8) 活動内容

##### 1) フェアトレード生産者団体(SPNP)の強化

アイキャンの技術訓練を受けた女性たちで始まったフェアトレード生産者団体(SPNP)が2005年に独立し、これまで8年間活動を継続することできている。しかしながら、新たに高齢化や新規商品の欠如等の課題が発生していることから、今年度新規商品開発と次世代育成を目指して、デザイナーによる商品開発研修を実施する。

##### 2) 多目的協同組合(PICO)のコンサルタント活動

2003年から2006年までアイキャンが実施してきた診療活動やデイケア活動等を、2007年から2010年にかけて、その運営を完全に住民に移行し、その過程で運営主体となる協同組合(PICO)が設立された。(その後、組合の収益源となる住民薬局が2店舗開設される。)2011年から2013年にこの協同組合の組織強化の研修を行ってきたが、今年度は相談相手として助言とモニタリングを実施するとともに、これまでの効果の検証を行う。

## E、自然災害の影響を受けた子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・ミンダナオ島南部において2教室を建設する。
- ・災害に対するネットワークを拡大する。

### 特記事項

- ・日本とフィリピン内外の災害に柔軟に対応する。

#### (1) 事業背景

世界中で発生する大規模災害は、人々に苦しみと恐怖をもたらし続けている。災害の被害は、最小限に抑えることができるにも関わらず、その取組は十分ではない。

#### (2) 事業地

- ① ミンダナオ島ミサミスオリエンタル州
- ② ミンダナオ島東ダバオ州
- ③ その他災害発生地域

#### (3) 実施事務所

ICAN ミンダナオ北部及び中部事務所他

(4) 目的 自然災害の被害を回避又は最小限にし、その苦しみを一刻も早く除去すること。そして、災害に強い地域を再び作り上げること。

(5) 活動の歴史 2000年～01年マニラ首都圏（ごみ山崩落事故）、2006年～07年南レイテ州（土砂崩れ）、2009年～10年マニラ首都圏（台風災害）、2011年～13年宮城県（東日本大震災）、2011年～13年ミサミスオリエンタル州（台風災害）、2012年～13年東ダバオ州（台風災害）

#### (6) 事業のパートナー

被災した子ども約500名と被災10地域等

#### (7) 活動分野 緊急救援、復興活動

#### (8) 活動内容

##### 1) 保健医療キットの提供

①において、保健キットの整備を引き続き継続する。

##### 2) 防災研修

①において、教師に防災研修を実施する。

##### 3) 学校の建設と学用品の提供

②の校舎が壊滅的被害を受けた地域において、キナブラガン小学校2教室(100名分)の建設を行うとともに、児童500名に対して、学用品の提供を行う。

##### 4) 新たな災害への緊急救援と復興の活動

今年度内に新たな災害が発生した場合、日本やフィリピン以外でも、その除去に努める活動を行う。

##### 5) 災害に対するネットワークの拡大

ジャパンプラットフォームに加盟するとともに、フィリピン国内のNGOとの連携体制を更に整備する。

## F、ジェネラル・サントスの子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・中退退学者を出さないように、フォローを行う。
- ・ミンダナオ州立大学入学者は、大学も継続する。

### 特記事項

- ・奨学生の数は21名となった。

#### (1) 事業背景

ミンダナオ島の南部のジェネラル・サントス市は、ツナやパイナップル等の魚産物・農産物が豊かに収穫できる一方、経済格差が激しく、公立学校にさえ子どもを通わせ続けることができない家庭が多く存在する。

#### (2) 事業地 ミンダナオ島南コタバト州

#### (3) 実施事務所 ICANミンダナオ南部事務所

(4) 目的 市内の経済的困窮家庭の生徒が、高校を卒業することができること。

(5) 活動の歴史 1994年に奨学金の提供を開始し、2005年には年間約200名の小・高校生が奨学生となった。その時点までに一定の成果が確認されたことで、2005年時点で奨学生であった子どもの奨学金を高校卒業まで継続することと、新規の募集を行わないことを決定した。また、2007年より多文化地域における相互理解の促進を目的に、コミック教材を作成、市内全域の小・高校に提供した。

(6) 事業のパートナー 21名の経済困窮家庭の子ども(高校生17名、大学生4名)

#### (7) 活動分野 教育

#### (8) 活動内容

##### 1) 通学補助

高校生17名、大学生4名に対して、学用品(ノート各種、鉛筆、ペン、消しゴムなど)、制服、傘、靴、靴など通学に必要な備品を提供し、また学費、通学交通費、教材費、卒業経費等を提供する。

##### 2) 緊急医療補助

奨学生入院ケース、また保護者死亡のケース等の緊急事態において、その経費を補助する。

##### 3) カウンセリング・相談

教師、保護者と協力して、子どもが継続して通学できるようカウンセリングや勉強会を実施する。

##### 4) 子ども集会の開催

子どもたちと保護者を集めて、成績優秀者の表彰や、子どもの権利について理解を促進する場を持つ。



## G、外国にルーツを持つ子どもたち

### 今年度の活動方針

- ・無料翻訳サービス活動の実施体制強化を行う。
- ・中期三年事業計画(2013-16)を策定する。

### 特記事項

- ・昨年度で中期四年事業計画(2009-13)が終了した。

#### (1) 事業背景

日本に住む外国にルーツを持つ子どもたちの親の多くは、日本語を読むことができず、学校からプリントを介した情報が入りにくい環境に置かれている。特に親に的確な情報を伝えることができない小学校の低学年の子ども家庭では、情報がない親が子どもの教育を支えることができず、子どもの学力低下を引き起こす等の問題を引き起こしてきた。

#### (2) 事業地 日本全国

#### (3) 実施事務所 ICAN 日本事務局

#### (4) 目的 親が日本語を読めないことで生じる子どもたちの教育の問題を市民の力で解決する。

(5) 活動の歴史 2008年に在日外国人親子に対する聞き取り調査を行い、そこで出てきた学校とのコミュニケーションの問題に対し、中期四年事業計画(2009-13)を策定し活動を行ってきた。これまでに、215名のボランティアが443件の翻訳を行い、異文化理解勉強会を行ってきた。また全国460ヶ所の国際交流協会に、活動を広めるチラシやポスターを配布してきた。

#### (6) 事業のパートナー

日本に住む外国にルーツを持つ子どもたち約30名

#### (7) 活動分野 教育

#### (8) 活動内容

##### 1) 無料翻訳活動

約200名の翻訳ボランティアとコーディネーターにより、学校からのお知らせや地域の回覧板等約200件の無料翻訳活動を行う。

##### 2) 実施体制の強化と新たな中期事業計画の策定

増加傾向にある翻訳依頼に円滑に対応するために、コーディネーターを増員し、運営体制を再整備するとともに、翻訳の質を向上させるために、高い語学力を持つボランティアの募集を強化する。また、新たな中期事業計画を策定する。

##### 3) 啓発活動

他事業と連携し、日本に住む外国にルーツを持つ子どもたちの現状を伝えていく活動を行う。

## H、子どもの参加を促進する事業

### 今年度の活動方針

- ・子どもの発案に基づく活動の実施に力を注ぐ。
- ・中期三年事業計画(2013-16)を策定する。

### 特記事項

- ・これまでに128名が子ども議会に参加している。

#### (1) 事業背景

子どもたちは、夢を持ち、実現していく力もあるにも関わらず、社会に自分たちの想いや感じていることを伝え、実現していく機会が限られてきた。特に、危機的状況に置かれた子どもたちは、より制限された環境に置かれ、「沈黙の文化」をつくり出している。

#### (2) 事業地 フィリピン各地

#### (3) 実施事務所 ICAN フィリピン全事務所

(4) 目的 危機的状況にある子どもたち自身が自分たちの置かれている現状を声に出し、他の境遇にある子どもたちと共有すること、そして、自らの活動計画をつくり、子どもたち自身が社会を変えていくこと。

(5) 活動の歴史 2007年より「子ども議会」を毎年開催し、これまで路上、紛争地、ごみ処分場、先住民、海外出稼ぎ労働者、身体的障がいを持つ子ども等危機的状況にある子ども128名が参加し、自らの置かれた状況を訴えてきた。

#### (6) 事業のパートナー

路上の子どもたち、紛争地の子どもたち、先住民の子どもたち、ごみ処分場の子どもたち等「危機的状況にある子どもたち」約20名

#### (7) 活動の分野 子どもの参加

#### (8) 活動内容

##### 1) 各地域での子どもたちの活動

前年度に子ども議会で作成した行動計画をもとに、フィリピン各地で、「危機的状況にある子どもたち」が、地域の課題に対して活動を実践する。

##### 2) 「子ども議会 2013」開催

「危機的状況にある子どもたち」の代表者たち約20名が一堂に会し、それぞれの「理想」と「課題」を共有し、行動計画を作成する「子ども議会 2013」を開催する。議会の報告書を製本し、配布する。

##### 3) 事業評価と中期事業計画の策定

事業評価を行い、中期事業計画(2013-16)の策定を行う。

##### 4) フィリピン国レベルの子どもの参加促進

NGO、政府機関、国連機関と連携し、「子どもの参加」を促進する活動を行う。

## 2、「できること」を増やすプログラム

### A、国際理解教育事業

#### 今年度の活動方針

- ・フィリピンの学校での国際理解教育を強化する。
- ・国際理解海外研修モジュールの改定作業を行う。

#### 特記事項

- ・今年度から「平和のキルト」活動が開始する。

#### (1) 事業背景

情報化社会が進み、あらゆる情報をより容易に得やすくなってきているものの、社会の中で弱い立場に置かれた人々の「こえ」が社会に伝わる機会は、未だ限られている。特に同世代の連帯を促進するためにも、NGOと教育機関等との連携が一層重要になってきている。

#### (2) 事業地 日本及びフィリピン各地

#### (3) 実施事務所 ICAN 全事務所

#### (4) 目的 開発事業を直接実施している特性を生かして、開発課題の理解や相互理解を促進すること。

#### (5) 活動の歴史 1994年より学校での授業や講義を開始し、2008年よりトゥライプロジェクトを開始した。

#### (6) 事業のパートナー 一般市民約7,000名

#### (7) 活動分野 開発教育、相互理解の促進

#### (8) 活動内容

##### 1) 学校での授業・講義の実施

日本とフィリピンの幼稚園から大学において講演を行い、若者の開発課題の理解と相互理解を促進する。

2) 開発教育講座やイベント等の実施、参加  
事業報告会などの自主イベント企画を実施するとともに、他団体主催のイベントへの出展や講演を行う。

##### 3) 事務所訪問受け入れ

事務所訪問を受け入れ、フィリピンの現状やアイキャンの活動を紹介し、身近な「できること」を提案する。

##### 4) 絵手紙大会（トゥライプロジェクト）

日本の小中学生や高校生とフィリピンの子どもたち約3000人が参加し、「10年後の私」をテーマにした絵手紙による交流を行う。

##### 5) 「平和のキルト」キャンペーン

ミンダナオ島の和平合意を後押しするための「平和のキルト」を募集し、ミンダナオの学校へ平和へのメッセージとともに贈呈する。

##### 6) 国際理解海外研修・事業地訪問の受け入れ

オーダーメイドの高校や大学の国際理解海外研修を行うとともに、ガイドラインに準じた形での事業地訪問を受け入れる。前者に関しては、モジュールの改定作業を進める。

### B、語学教室事業（スマイルチケット）

#### 今年度の活動方針

- ・授業の質の向上と授業環境の充実を目指す。
- ・他事業との連携により、波及効果を意識する。

#### 特記事項

- ・無関心層を関心層へ、そして行動層へと変えていく。

#### (1) 事業背景

世界中の人々が連携し、地球規模の課題に対して行動することが、求められる中、益々コミュニケーション手段としての「語学力」が重要になってきている。しかしながら、日本において語学力を伸ばしていく機会は依然として限られ、また母語以外の言葉を使用して、地球規模の課題について議論する機会も限られてきた。

#### (2) 事業地 ICAN 日本事務局事務所内

#### (3) 実施事務所 ICAN 日本事務局

#### (4) 目的 語学力の向上を通じて、相互理解と開発課題についての理解を促進すること

#### (5) 活動の歴史 2011年より事業を開始し、2011年は20名、2012年度は46名が通常講座に参加した。

#### (6) 事業のパートナー 一般市民約100名

#### (7) 活動分野 開発教育、相互理解の促進

#### (8) 活動内容

##### 1) 語学教室(SMILE Ticket)の運営

昨年度に続いて、通常講座として、英語とフィリピン語の教室の運営を3つの語学レベルで行う。また、旅行会社と連携し、タガログ語講座を実施する。

##### 2) 授業の質の向上

教師の一人ひとりの特性を活かし、指導できるように講師の研修を行う。

##### 3) 教室の設備及び備品の充実

間仕切りやホワイトボードの整備を進め、受講者が勉強しやすい環境を務めるとともに、受講者間の情報交換を目的とした情報ボードを設置する。また、フィリピンでの事業の最新の様子が分かるように写真を掲示する。

##### 4) イベントの実施

語学教室で学ぶ生徒と講師の両方が参加するイベントを開催するとともに、受講生自身による開催を積極的に奨励していく。

##### 5) 広報強化

受講者を増加させるために、他の事業と連動させ、積極的に広報を行う。

## C、スタディツアー事業

### 今年度の活動方針

- ・計6回のスタディツアーを実施する。
- ・ツアーモジュールの改定作業を行う。

### 特記事項

- ・引き続き、旅行会社との提携のもと実施する。

#### (1) 事業背景

路上の子どもたちやごみ処分場周辺に住む子どもたち等の危機的状況に住む子どもたちの課題を解決するためには、一人でも多くの人々が、実際に子どもたちからその状況を学び、それを一人称の「自分の問題」として認識して、行動していく必要があるが、その数はまだ十分とは言えない。

#### (2) 事業地 マニラ首都圏

#### (3) 実施事務所 ICAN 日本事務局及びマニラ事務所

#### (4) 目的 社会の課題を「自分の問題」として捉える人材を増やすとともに、異文化間の相互理解を促進すること

#### (5) 活動の歴史 2000年より、事業地の子どもたちと日本からの参加者の交流を行う「アイキャンスタディツアー」と社会開発の基礎を学ぶ「社会開発研修」を実施してきた。

#### (6) 事業のパートナー

日本の一般市民50名、フィリピンの子ども300名

#### (7) 活動分野 開発教育、相互理解の促進

#### (8) 活動内容

##### 1) ICAN スタディツアー

マニラ首都圏及びその近郊のアイキャン事業地の住民や子どもたちとの交流を行う4泊5日のツアーを、8、9月に3回、12月に1回、2、3月に2回と、計6回実施する。基本的な行程は以下の通りである。

1日目：集合、オリエンテーション等

2日目：ごみ処分場の子どもたちとの交流

3日目：路上の子どもたちとの交流

4日目：子どもたちとの遠足、買い物等

5日目：解散

##### 2) モジュール改訂作業

行程の評価を行い、積極的にモジュールの見直しを行う。

##### 3) 帰国後の報告会

帰国後の参加者同士のつながりを強化し、日本において次の行動へと移行してもらえるように、参加者の帰国報告会を開催する。

## D、フェアトレード事業

### 今年度の活動方針

- ・企業や他組織と連携し、販路拡大に注力する。
- ・ネットワークを通じた啓発活動を行う。

### 特記事項

- ・今年度より販売事業と啓発事業を統合する。

#### (1) 事業背景

「買い物」を通じて、平和な社会の構築を目指すフェアトレード（公正な貿易）運動は一部で盛り上がりを見せつつも、参加の機会は依然として限られており、それは特に東京以外で顕著である。フェアトレードの認知度とその意義をより多くの人に伝えていく必要がある。

#### (2) 事業地 日本全国及びマニラ首都圏

#### (3) 実施事務所 ICAN 日本事務局及びマニラ事務所

#### (4) 目的 フェアトレード活動を推進すること

#### (5) 活動の歴史

#### (6) 事業のパートナー

生産者団体(SPNP)及び日本の一般市民約2000名

#### (7) 活動分野 収入向上、開発教育、相互理解の促進

#### (8) 活動内容

##### 1) フェアトレード商品の販売

日本とフィリピンで、イベント、バザー、学園祭、事務所、ホームページ、ショップ等を通じて、フェアトレード製品を販売する。企業や他組織と連携し、価格単価が高い商品の販売を強化するとともに、フィリピン料理やフェアトレードコーヒー等の飲食出店にも挑戦する。

##### 2) フェアトレードの啓発活動

昨年度、名古屋のフェアトレード推進団体が集まり、「フェアトレード名古屋ネットワーク」を設立した。ICANは「呼びかけ団体」及び「副代表」として以下の活動を主に行う。

##### ① 定例会への参加と助言

名古屋において、フェアトレードを促進するための課題や方策を洗い出し、ネットワークとしての活動を促進する。

##### ② 「東海フェアトレードポータルサイト」の運営

東海地域のフェアトレードについての情報を掲載したポータルサイト「東海フェアトレード情報サイト」を運営する。

##### ③ 「東海フェアトレードマップ」の作成

東海地域の170のフェアトレードショップが掲載されている「東海フェアトレードマップ2013」を発行する。

## E、NGO 相談員事業

### 今年度の活動方針

- ・相談員制度の広報に facebook を活用する。
- ・積極的に出張相談を行う。

### 特記事項

- ・外務省からの受託事業として実施する。

#### (1) 事業背景

日本の NGO は欧米の NGO に比べるとまだまだ組織が弱く、一般市民の認知度も高くない。特に東京以外では NGO の数も少なく、NGO 活動の活性化が求められている。

(2) 事業地 中部・北陸 9 県（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、福井県、石川県、富山県、新潟県）及び他都道府県

(3) 実施事務所 ICAN 日本事務局

(4) 目的 中部・北陸地域において、NGO の認知度が向上するとともに、NGO 活動がより活発化すること。

(5) 活動の歴史 2010 年より外務省「NGO 相談員」の中部ブロック団体として NGO に関する相談を受け付けてきた。

(6) 事業のパートナー 中部・北陸の市民約 1500 名

(7) 活動分野 NGO の地位向上

#### (8) 活動内容

##### 1) 通常相談業務

海外開発事業やフェアトレード、国際理解教育、多文化共生事業、スタディツアー等の長年の実施経験をもとに、中部・北陸地域の NGO や学生、教育機関、行政、企業の CSR 担当者、その他団体や個人からの NGO に関する幅広い相談に応じる。

##### 2) 出張相談業務

JICA 国内機関や国際交流協会、他の相談員受託団体等と連携し、NGO 関連イベントへの出席や講演等を行う。その際、東京のグローバルフェスタ、名古屋のワールドコラボフェスタ、大阪のワンワールドフェスティバルの合同出張相談を行うとともに、NGO 連携無償資金協力等に関する出張相談を行う。また、岐阜県、石川県、富山県を重点地域として、出張に努める。

##### 3) 全国相談員会議への出席

6 月に東京で、11 月に福岡で開催される全国相談員会議に出席し、他の受託団体との連携を促進する。

##### 4) NGO 相談員事業の広報

NGO 相談員の認知度を向上させるために、全国の相談員受託団体と協力して、facebook を活用するとともに、中部地域での訪問を積極的に行う。

## F、インターン育成事業

### 今年度の活動方針

- ・愛知県とマニラでインターンを積極的に募集する。
- ・大学院生への特別制度を新設する。

### 特記事項

- ・これまでに数多くの修了生を輩出してきた。

#### (1) 事業背景

NGO への就職希望者は増えているものの、即戦力となるための就業経験を得られる機会は限られている。特に日本の東京以外の地域や海外事務所においてその傾向は顕著であり、NGO マインドを持った人材を NGO 自身が積極的に増やしていくことが求められている。

(2) 事業地 愛知県及びマニラ首都圏

(3) 実施事務所 ICAN 日本事務局

(4) 目的 将来 NGO を担う人材を育成するとともに、NGO の深い理解を持つ人材を育成すること

(5) 活動の歴史 インターンの受け入れとしては設立当初より、事業としては 2010 年より、NGO での労働体験機会を提供し、人材育成を行ってきた。修了生の就職先には、NGO 職員、大使館職員、政府系援助機関職員、フェアトレード会社等があり、進学先にはオランダやフィリピンの大学院等がある。

(6) 事業のパートナー 若干名

(7) 活動分野 能力強化

#### (8) 活動内容

##### 1) 日本でのインターンの受け入れ

日本では、独自にインターンを募集するとともに、他団体や教育機関のプログラムと連携して募集を行い、積極的に受け入れを行う。

##### 2) マニラでのインターン受け入れ

マニラではフィリピン大学の日本人留学生に対して募集を行い、積極的に受け入れを行う。

##### 3) 日本人大学院生への特別制度

フィリピンにいる日本人大学院生のインターン特別制度を新設する。「準職員」としての位置付けを与え、これまでよりもより責任のある業務を担えるように育成するとともに、増加するマニラの日本人職員の業務の軽減を目指す。

## G、MY アイキャン事業

### 今年度の活動方針

- ・街頭募金の回数と参加者を増加させる。
- ・各地域のボランティアの数を増加させる。

### 特記事項

- ・今年度より1つの「事業」として実施する。

#### (1) 事業背景

地球規模の様々な課題に対し、生まれ育った地域に根差して取り組むことができる機会は、依然として限られており、日本では特に東京以外の地域において顕著である。またフィリピンに住む日本人においても、NGO 活動への参加は身近なものになりえていない。

#### (2) 事業地 愛知県及びマニラ首都圏

#### (3) 実施事務所 ICAN 日本事務局及びマニラ事務所

(4) 目的 地球規模の課題の解決に向けて、「ともに」頑張る仲間を増やし、社会の中で「できること」を増やすこと。

(5) 活動の歴史 団体名であるアイキャンが示す通り、設立以来のミッションに通じる活動としてこれまで実施してきた。今年度より、それらをまとめて「事業」として、より積極的に実施する。

(6) 事業のパートナー 約 2000 名

(7) 活動分野 市民社会の創造

#### (8) 活動内容

##### 1) 物資の収集活動

書き損じハガキ、未使用切手、テレフォンカード、商品券、古本・CD・DVD を収集する。

##### 2) 寄付付き自販機の設置促進

寄付付き自販機の設置を促す。

##### 3) 各地のボランティア活動の促進

以下の4ヶ所においてボランティア数を増加させるとともに、名古屋での街頭募金を活性化させる。マニラでは、フィリピン人ボランティアを積極的に募集する。

#### ① 名古屋での活動

- ・街頭募金ボランティア（毎月）
- ・事務作業ボランティア（随時）
- ・フェアトレードボランティア（随時）

#### ② 東京での活動

- ・フェアトレードボランティア（随時）

#### ③ 大阪での活動

- ・フェアトレードボランティア（随時）

#### ④ マニラでの活動

- ・フェアトレードボランティア（随時）
- ・事務作業ボランティア（毎週）
- ・なんでもボランティア（随時）

---

その他の活動に係る事業は予定していない。